

中学校（1年生）

2月

より深い相互関係

時間とともに、それぞれのイメージや学級内の人間関係が固定化されてくる。今まで見えなかった面を引き出し、新しい人間関係づくりをすることで、新たな学級展開をめざす。

活動の実際

＜AHA体験＞ いないいないばあ	
準備物	なし
活 動 内 容	支援及び留意点
①両の手のひらを組んで、組んだまま手首を内側に回す。 ②人差し指を鼻の両脇に置いて、手を組みほどく。 ③両手が重ならず、広がるはず。	○実際にやりながら、やり方をまねてもらう。 ○広がらない人は、指の組み方を変えてみる。
＜発展＞ ○広がった人は、広がらない方法を考える。	
＜ふりかえりの視点＞ ○なかなかできない時、どんなことを感じた？ ○うまくできた時、どんなことを感じた？	
＜比喩（メタファー）＞ ○方法に変化を持たせ、いろいろな方法で挑戦する。	

よろしく	
準備物	なし
活 動 内 容	支援及び留意点
①全員が輪になっていすに座る。 ②リーダーは輪の中に入り、簡単な自己紹介をした後に「よろしく」と言う。 ③「よろしく」を合図に、他のいすに座り直す。 ④いすに座れなかった者がまた自己紹介を続ける。	○みんなの前でうまく自己紹介ができない者もあるので、配慮が必要。 ○いつも同じパターンで動かない。 ○いすの奪い合いは危険を伴う。
＜発展＞ ○2人組を使って行う。 ○「よろしく」以外の合図を考える。	
＜ふりかえりの視点＞ ○何度も座れない人に配慮した？	



3つの自分	
準備物	メモ用紙、筆記用具、箱
活 動 内 容	支援及び留意点
①各自に一枚ずつメモ用紙を配る。	

- ②人が知らない自分についての情報を3つずつ記入する。
- ③リーダーがメモ用紙を回収して、箱に入れる。
- ④リーダーが無作為で一枚ずつ読み上げ、みんなでそれは誰かをあてていく。

- メモ用紙には氏名を書かない。
- 人に知られてもいいことを書く。

<発展>

- 将来の夢を書く。
- ほかのメンバーについて書く。



見えない共通点

準備物 なし

活 動 内 容

支援及び留意点

- ① 4人組になる。
- ② 2分以内で、4人の共通点をできるだけ多く見つける。
- ③ その共通点は一見してわからないことに限ることを知らせる。
- ④ グループごとに共通点の個数を発表する。

- グループの誰かが数えておくよう確認する。
- 共通点の個数は、あくまで意欲付けに使うだけであり、勝敗はつけない。
- いくつであっても、「共通点が見つかったことはすばらしい。」と強調する。

<発展>

- 制限時間を変える。
- 目標個数を決めて、時間を測る。

<ふりかえりの視点>

- 今回のこの活動のねらいは何だと思う？
- 共通点と相違点とどちらが多かった？



お花畑

準備物 特設コース

活 動 内 容

支援及び留意点

- ① 2人組になる。
- ② 特設コースを1分間全員に見せる。
- ③ 1人は目隠しをする。
- ④ 花(障害物)にふれたら、最初からやり直す。
- ⑤ ゴールしたら、役割を交替する。

- 目をつぶることや声で誘導することについての十分な練習が必要である。
- 簡単な活動から積み上げていくことが望ましい。
- 安全性に配慮し、必要なら介入・阻止する。
- 飛んだり、走ったりしてはならない。
- 障害物は危険性のない物を使う。
- バドミントンコート of 広さが目安。

<発展>

- パートナーは①一緒に入る②畑の外側にいる③ゴール地点にいる
- → 3Dお花畑(立体的な障害物を伴うコースで行う)

<ふりかえりの視点>

- 相手と合わせるために、どんなことを考えた？